

## 豚コレラとアフリカ豚コレラ

9月に入り岐阜県で発生した豚コレラは、強い伝染性と高い致死率を特徴とする疾病です。近年ロシアや中国で感染が拡大しているアフリカ豚コレラとは、原因ウイルスは全く異なりますが、臨床症状は酷似しており、症状だけで区別することは困難です。

どちらも発病豚の鼻汁、唾液、尿、糞便等から経口・経鼻感染し、発病豚由来の非加熱性の肉製品（燻製、生ハム、冷凍肉等）を摂食することによっても感染します。

消毒薬はどちらも逆性石鹼や次亜塩素酸ナトリウム等が有効です。なお、豚コレラは日本では26年ぶり（平成4年以来）の発生ですが、アジア（台湾以外）をはじめ多くの国々で現在も発生が続いています。

### 豚コレラ

病原体：フラビウイルス科 ペスチウイルス属 豚コレラウイルス

症状：①発熱、元気消失、食欲減退 ②便秘、次いで下痢  
③結膜炎（目ヤニ） ④起立困難、後躯麻痺、痙攣  
⑤耳翼、下腹部または四肢等の紫斑 ⑥削瘦、被毛粗剛  
⑦異常産の発生

急性型では致死率はほぼ 100%とされており、短期間に死亡頭数が増加します。

### アフリカ豚コレラ

病原体：アスファウイルス科 アスフィウイルス属 アフリカ豚コレラウイルス

症状：①発熱、元気消失、食欲減退 ②皮膚の出血・潰瘍  
③耳翼、下腹部または四肢等の紫斑 ④肺炎 ⑤流産 ⑥関節炎

急性型では致死率はほぼ 100%とされており、短期間に死亡頭数が増加します。

豚コレラとアフリカ豚コレラは、豚・いのししの病気であり、人に感染することはありません。また感染豚の肉を食べても人体に影響はありません。

### 岐阜県の 豚コレラ 発生情報 ・対応状況

#### 周辺農場へ の対応

9月3日	死亡豚（肥育）1頭について病性鑑定。
9月9日	豚コレラ患畜確定。防疫措置開始。
9月10日	殺処分完了（546頭）。
9月11日	埋却処分を含む防疫措置完了。
9月13日	確認農場と同一の堆肥場・と畜場を使用していた農場等 13農場について遺伝子検査陰性を確認

発生農場から半径 3 km内を移動制限、10 km内を搬出制限。

一定期間\*後に検査し、異常が無ければ解除される予定。

※ 防疫措置完了から移動制限は 17 日以上、搬出制限は 28 日以上

（9月13日15時現在）

関係者には9月9日付け家畜衛生情報（通算321号）で県から注意喚起したところですが、異常がみられた場合は直ちに家畜保健衛生所にご連絡ください。